

がんばる三上農場プラン

作成年度 平成25年5月30日
プラン変更 平成26年3月17日

作成者 三上浩司

がんばる三上農場プラン

作成者 三上浩司

事業主体 三上農場

1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

私は、7年前から農業を始めました。

当初 4ha の作付面積でスタートしましたが、現在は、自作・小作地を合わせて 14.5ha までに増え、受託作業も増えてきました。

水田作業については、自分が所有する機械で行っており、必要な機械等も自己資金で対応してきました。

近年、地域農家の高齢化に伴い小作面積と受託作業が増えてきたため、作業の効率化を図る必要性がでてきました。同時に、能力が不足する、或いは更新時期の迫る農業機械の導入を行い、持続的に農業を行う環境を整備していく必要があり、これらの取り組みによって地域の耕作放棄地を発生させないようにします。

また、地域の家畜業者から豚糞を購入し、特別栽培米のほ場に散布するなどして、資源の循環を意識した作物栽培も行い、環境に配慮しています。

最近、私の周囲では「自分が栽培した米を自分で食べたい」という声をよく耳にし、私も地域の担い手としてその声に応えていきたいと考えています。

今回、がんばる農家プランを作成し、引き続き地域農業の担い手として農地や農作業を引き受けて、経営規模の拡大に努めながら、農作業の効率化や労力の軽減に取り組み、更には地域内の雇用をすすめて、他担い手との連携や JA 施設利用など工夫を行いながら、地域と一緒に安定した農業経営を続けていきたいと考えています。

（プラン変更点）

前回審査後、地域内から2名を正雇用することとなり、更に規模拡大がすすむこととなったため、水稻の春作業や収穫後作業の遅れを防ぐため、ドライブハローの新規導入と耒摺機的能力アップを計画した。



事業主体（中央）と新たに正規雇用した従業員

2. 生産経営の現状・課題

1) 生産経営の現状 三上農場 (平成25年度)

《経営規模》

自作地	借入地	合計
2.0ha	12.5ha	14.5ha

《作目》

水稲	そば	トマト	ピーマン
1,101a	341a	2.4a	5.3a

※生産物のほとんどはJAへ出荷。

《作業受託》

耕耘	代掻き	田植え	稲刈り	乾燥調整
2.3ha	7.9ha	12.0ha	10.2ha	10.2ha

※作業受託面積は、平成25年度申請時の数字に一部誤りがあったため修正した。
経営試算の売上高には変更なし。

《所有機械・施設》 H26.3月現在

	現有資産	能力	導入時期
機械	トラクター	33ps	H18.02
	トラクター	28ps	H24.05
	コンバイン	4条刈	H17.10
	田植え機	6条	H18.06
	籾摺機	4インチ	H19.08
	乾燥機	30石	H14.08
	乾燥機	30石	H21.08
	色彩選別機		H23.08
	米保管庫		H24.04
	動力噴霧器		H21.04
	畦付け機		H21.04
	トラック	2t	H12.09
	軽トラック		H24.01
	リフト		H21.05
	軽ワゴン		H21.03
	キャリアカー		H25.03
	フレールモア		H25.06
	乾燥機	25石	H25.08

	現有資産	能力	導入時期
施設	農作用場		H14.08
	倉庫		H24.09

《経理》

ソリマチによる複式簿記 (青色申告)

2) 課題等

①作業時期の集中と農業機械の能力不足

近年は米価の下落による農家所得の減少、及び農家の高齢化や兼業化により、営農の継続が困難になった地域の農家から作付け依頼や作業委託の要望があるが、現有の機械作業では能力が足らず、また作業範囲も広範囲に渡っており

、特に、刈取りについては、刈取り時期の天候不順等により作業効率が悪く、適期に刈取りができていません。

作付け品種の多くがコシヒカリであるため、刈取り適期は9月上・中旬なのですが、現在の体制では刈取り作業は9月上旬に始まり10月上旬までかかっており、経営に響くような品質低下も生じてしまいかねない綱渡りの作業状況です。

また、刈取りが順調でも、籾乾燥機の容量不足により作業に遅れを来すこともあるため、急いで体制強化が求められます。

更に、春作業についても課題を抱えています。春先は雪解けの状況などにより作業開始が遅れることがあり、毎年田植えが終わるころまで息つく暇がありません。特に、日南町では代掻きは“荒代掻き(荒がき)”と“植代掻き(植かき)”の2回を行うことが慣例であるため、代掻き作業の効率アップが課題です。

②直販率の増加

経営安定を図ることが必要です。消費者との交流を通じるなどして、安心・安全な米を生産して、直販率を伸ばしていきたいと考えています。しかし、現在は作業をこなすことに手一杯で、消費者ニーズに応える十分な生産体制が整っておらず、消費者との交流も十分にできていません。

3. 生産経営等の改善内容(目標)と効果

1) 改善内容と目標値

①籾乾燥機、コンバイン及び籾摺機の導入

コンバイン及び籾乾燥機を新たに導入することで作業効率を上げます。

適期刈取りを行うため、現在は80a/日の作業ペースで、乾燥機(30石)2台分しか刈取りができていませんが、1機(25石)追加導入したことで一部改善はできましたが、コンバインを導入して更に多くの量を処理していく必要があります。また、籾摺機の能力アップについては、昨年の申請時には色彩選別機(斑点米等を自動で除去する機械)との連結の関係で導入を断念していましたが、メーカーの確認ミスが判明し、今回導入することにしました。これによりこれまでの1.5倍以上の処理能力をもつことができます。

なお、H26年に導入するコンバインの能力に合わせて、籾乾燥機の能力を更に

向上させたいところですが、倉庫増設が必要となり過剰投資となるため現段階では断念しました。

(コンバイン) H24: 4条刈り1台 → H27: 4条刈り2台(H26年8月導入予定)

(粃乾燥機) H24: 30石2台 → H27: 30石2台、25石1台(H25導入済)

(粃摺機) H25: 4インチ → H27: 5インチ (H26年8月導入予定)

(刈取時期) H24: 9月上旬~10月上旬 → H27: 9月上旬~9月下旬

②春・夏作業の生産効率の向上

現在は、主に1台のトラクターで、作業幅2mのロータリーで耕耘をしていますが、作業幅3mのドライブハロー(代掻き専用アタッチメント)を装備することで作業効率アップを図ります。

(代掻き作業) H25: ロータリー(2m幅) → H27: ドライブハロー(3m幅)
(H26年5月上旬導入予定)

③労働力の充実

年代労力に合わせた作業形態を整備し、地域内労働力の効果的利用を図ります。

2名を新たに雇用することで、水稲作業はもちろん、手が回っていなかった施設野菜に手がかけれるようになります。なお、従業員の安全を考え、農作業安全講習等への出席は徹底します。

(地域雇用) H24: 77人役 (特定の1名を農繁期のみ臨時雇用していた)

→ H27: 2名正規雇用(地域内)

(H26年4月雇用開始)

④特別栽培米の増加と直販割合の増加

現在は、水稲の生産方法を慣行栽培と日野特別栽培との両方を行っていますが、今後は、良食味米といわれる日野特別栽培米に併せて作業を行うこととします。

生産物の有利販売を行う為、付加価値を高めた米やあまぴー等を生産し、また消費者に対して直接販売を行います。

(特栽培面積) H24: 6ha → H27: 9ha

(直接販売割合) H24: 20% → H27: 30%

2) 事業効果

①規模拡大

耕作の継続が困難となった水田の作業を受託することにより、耕作放棄地の発生を未然に防止し、地域の農地保全に貢献できます。

②雇用の確保

今回、このプランの作成をきっかけに、自らの今後の経営を見直すきっかけとなり、平成26年度から地域内から2名の正規雇用をすることとなりました。

うち、1名は独立就農を目指していた若者で、当面は三上農場で施設野菜を中心に技術を磨かせるつもりです。

将来は、地域の農業を任せられる農業者になってほしいと考えています。

③反収の向上

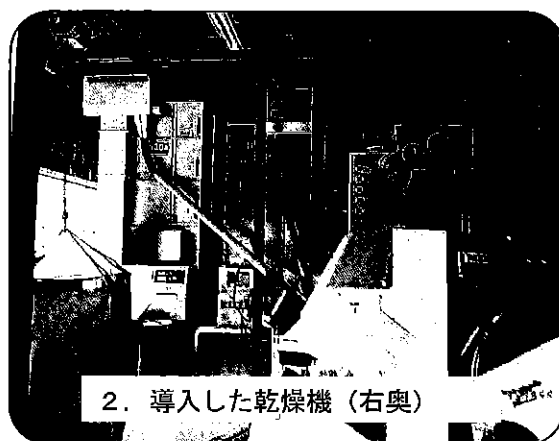
これまで、水稲も施設野菜も作業をするのが精一杯で反収が少ない現状がありました。しかし、今後は労働力を充実させたことで丁寧な作業に心がけて反収を向上させて売上高も向上させていくことができます。

④環境への配慮

特別栽培農産物の栽培によって、環境に配慮した追肥及び有機質肥料を使用した農業の推進につながります。



1. 水稲の収穫作業の様子 (H25.9月)



2. 導入した乾燥機 (右奥)

4. 目標達成に向けた取り組み（年次別の行動計画）

項目	内容	H25	H26	H27
規模拡大	作付け及び受託面積の増	○	○	○
労働力の有効利用	地域の合意により、作業組合での仕事配分を行う	○	○	○
消費者との交流	交流の実施	○	○	○
米乾燥機の導入	がんばる農家プラン事業で導入	◎		
4条刈コンバインの導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎	
ドライブハローの導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎	
籾摺機（5t）の導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎	

※ ◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

5. 機械・作物の年次別計画

年度	H25（実績）	H26（計画）	H27（計画）
機械・施設導入計画	米乾燥機の導入 (1,365千円)	コンバインの導入 (6,500千円) ドライブハローの導入 (1,000千円) 籾摺機の導入 (800千円)	—
ソフト事業計画	消費者との交流	消費者との交流	消費者との交流
対象作物の生産計画	水稲 1,101a そば 341a トマト 2.4a ピーマン 5.3a (作業受託) 耕耘 2.3ha 代掻き 7.9ha 田植え 12.0ha 刈取り 10.2ha 籾乾燥 10.2ha	水稲 1,176a そば 394a トマト 0a ピーマン 7.7a (作業受託) 耕耘 2.3ha 代掻き 7.9ha 田植え 12.0ha 刈取り 10.2ha 籾乾燥 10.2ha	水稲 1,300a そば 420a トマト 0a ピーマン 7.7a (作業受託) 耕耘 2.3ha 代掻き 7.9ha 田植え 12.0ha 刈取り 10.2ha 籾乾燥 10.2ha

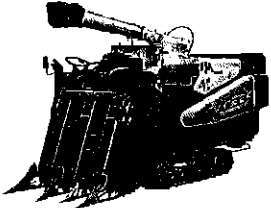


6. 支援事業の内容

(単位：円)

内 容	事業費			負担区分
	H25(実績)	H26(計画)	H27(計画)	
米乾燥機の導入	1,365,000			県 1/3 町 1/6 本人 1/2
4条刈コンバインの導入		6,500,000		
ドライブハローの導入		1,000,000		
籾摺機の導入		800,000		

※補助残は全て近代化資金借入を予定している。

(参考) 三上農場の刈取り作業から玄米作業まで

作業	作業内容と所要時間 (機械は今後導入予定も含む)	作業機械図
①刈取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4条コンバイン ・ 作業時間は、10:30～17:00 (早朝開始すると、籾水分が多く籾乾燥でかなりの時間を消費。) ・ 1日でおよそ80a程度の刈取り面積が可能。 (作業ほ場が分散しているため、移動時間もかかる。) 	
②運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刈取りした籾を運搬する。 ・ 従業員などが運転を行う。 ・ 時には刈取りしながら、本人が運転をすることもある。 	
③籾乾燥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30石×2台、25石×1台 ・ 作業時間は、18:00～翌朝 ・ 刈取時25%の水分を約15%まで乾燥。 ・ 乾燥時間は、30石2台で約80a分。 25石1台で約35a分。 (上記全ての機械で約115a/日処理) ・ 作業受託の場合、乾燥機が満杯にならなくても、地権者毎に乾燥を行う必要があるため、1日処理量は更に減る。 	
④籾摺り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5インチ (籾から玄米にする機械) ・ 最大2.0t/hrの処理量 (1日に刈取り・乾燥した籾を、約3時間で処理する) 	
⑤色彩選別機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青米、乳白米などが多い場合は処理速度が遅くなる。 (青米は早刈りで、乳白は栄養不足・高温障害・刈遅れなどで生じる。) 	

連結